

日記

たくさんの技術を学んだ筑波宇宙センター

僕は、筑波宇宙センターに行き、宇宙に行くために、たくさんの技術が必要だと思いました。なぜかというところ、ロケットの構造にいろいろない工夫があったからです。まず初めに、ロケットを軽くするため、アルミはくが、外側にはラフレたことに、僕は感心しました。それから、船内実験室に、無重力だから体を移動するための手すりがないこと、いも、感心したし、まちがえてスイッチを押さないように、スイッチの前にしゅう害物を置いていて、いることにも、すごく感心しました。と同時に、

宇宙では、つねにきん張感を持っていないとダメなのかなと思います。そして、僕は、宇宙飛行士の人はずいぶんではないかなと思います。それは、宇宙飛行士に、八百人が応募したのに、わずか三人しか、宇宙飛行士になれなかったからです。だから、よほどすごい人でないといけないし、訓練にたえたんじゃないかと思いました。後、前に、毛利さんが、もう一度宇宙に行きたいかと聞かれたら、訓練がそうとうきびしく、家族とも会えないことを考えると、宇宙に行きたくないというような答えだっただから、宇宙に行くまでの訓練で何かを失なってしまうのではないかと

きのいのではないのかと考えました。あと、小さな
 ゴミがぶつかって、宇宙ステーションに穴が空く
 と、九十秒で宇宙ステーションの中の空気がなく
 なってしまふのにもおどろきました。だから、
 脱出用のロケットもついていまして、
 かが九十秒で、空気がなくなってしまうのは、お
 そろしいと思います。
 次に、ロケットが発射されたとき、燃料タンク
 など、海に落としてから、そのままにしておくと
 いうことに疑問を持ちました。
 なぜかというところ、あれだけ地球環境問題が起
 っ、大さわぎしているのに、ロケットのため
 は、海をよごしてもいいのかわからない。

とも思いました。だから、宇宙飛行士は、犠牲を
 はらって、宇宙へ行くのかもしれないと思います。
 た。
 次に、僕は人工衛星が宇宙で小さな一センチぐら
 いのゴミにぶつかって、ただけで、大きな破れんが起
 きることを、知ってとてもびっくりしました。
 なぜかというところ、小さな一センチぐらいのゴミが
 ぶつかって、ただけで、大きな破れんが起きるとは、
 思いもよらなかつた。僕は、このことに
 ついて、小さな一センチぐらいのゴミでも、スピー
 ドが速ければ、ぶつかるときのしゅうげきは、大